

西光寺だより

第九十二号 平成三〇年四月一日発行

暖かく過ごしやすい季節となりました。

安威川の堤防の桜を見ながら過ごしている日々は、なんとも穏やかで、幸せな時間であります。今年は晴れの日が続き例年より長くその美しい姿を楽しませてくれています。それでもやはり、花は散りゆくもの。

美しい姿に見とれてはいるうちにひらひらと散りゆくその姿に惜しむ気持ちを感じられません。絢爛な美しさはもちろん、その花のいのちの短さゆえに毎年感動を与えてくれるのかもしれない。

「ひさかたの 光のどけき 春の日に しづ心なく 花の散るらむ」

「日の光がのどかな春の日なのに、どうして桜の花はあわただしく散っていくのでしょうか。」(現代語訳)

古今和歌集にある紀友則の詠んだ有名な句です。のどかな春の日のゆつたりとした時間、いつまでもこのままであってほしいのに、なぜ桜はあんなにあわただしく散り急ぐのかと過ぎゆく春を惜しんでいます。同時に桜の散りゆく姿に人の世のはかなさを重ねあわせていたのではないのでしょうか。

この度の春季永代経法要のご縁でご法話をさせていただきました向嶋先生のお話の中にも出てきました、無常の理のお話し。仏教の根本思想である三法印の一つ、諸行無常、この世の一切は続かないという意味。他の宗教にはない仏教だけの旗印であります。

どんなにこのままであってほしいと願ってもこの世に変わらないものは何ひとつとしてありません。それは人の命も同じです。そんな無常の人生をどうすれば意義あるものにするか、親鸞聖人は「それは仏さまの教えに生きること」であると仰られています。「必ず救う、我にまかせよ」の尊い願いこそは一切変わることはありません。どんな状態にあっても、必ず救っていただける、そんな大きな大きな安心の中に私たちはいるのです。

蕾のときも満開に咲き誇っているときも、そして散っていくときでも仏さまの大きなお心はすぐそこにあります。春の陽のぬくもりのように見守っていただいているのです。どうぞ安心して今のあなたを生きて下さい。

合掌



西光寺境内の桜



◆四・五月の行事◆

・五月 二十日(日)・二十一日(月)

宗祖降誕会

親鸞聖人がご誕生になられたことをお祝い申し上げる法要であります。是非お時間のある方は京都西本願寺にお参り致しましょう。

京都西本願寺

◆先月の報告◆

①三月二十一日(水・春分の日)仏教婦人会追弔会・総会を開催致しました。十一時三〇分より追弔会法要、皆様共々正信偈のお勤めの中、お焼香をし、先人の方々を偲ばせていただきました。そして、昼食をいただき、十三時より総会。今年度は仏教婦人会役員改選となり前年度役員の方々、三年間ありがとうございました。今年度は、新役員の方々、三年間お世話になります。介護など何かとお忙しい中、お引き受けいただきましたこと本当に感謝申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。



②三月三十一日(土)西光寺本堂にて、追弔会ならびに春季永代経法要を厳修致しました。たくさんの方々に参加していただきました。

今年度、お浄土へご往生された五人の講の方々をお仲間である皆様と偲ばせていただき、出会えたこと・ご縁をいただいたことを思いながら、阿弥陀経のお勤めの中、お焼香を致しました。そして、引き続き春季永代経法要。阿弥陀経のお勤めをさせていただきます、先人の思いを代々繋げていただいたことを改めて感謝し、確かめあいました。

御法話は北畠晃融師でしたが急遽体調を崩されたということで、中央仏教

学院の向嶋信吾師をお招きさせていただきお話しを聴聞致しました。五年ほど前にもご縁をいただき、わかりやすく楽しく過ごすことができました。本当にありがとうございました。



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七一二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>